

譜久山 剛

医療法人社団 医仁会 譜久山病院 院長



平成6年に長崎大学医学部を卒業して（そして1年国家試験浪人）、平成7年に神戸大学の消化器外科に入局し、神戸大学附属病院、兵庫県立姫路循環器病センター、大阪府済生会中津病院、国立神戸病院（現神戸医療センター）勤務を経て医療法人社団医仁会譜久山病院勤務。消化器を中心とした内科、緩和ケア、在宅ケアをします、いまの自分はまち医者だと思います。

地域の人たちと作る新しい病院

僕たちの病院は有床診療所「譜久山外科」として1974年に兵庫県明石市で開業いたしました。2002年に77床の一般急性期病床と39床の介護型療養病床に変更して現在にいたります。古くなった建物を建て替えるにあたり、2006年頃から病院設計のプロフェッショナルである伊藤喜三郎建築研究所と構想を練っておりました。2012年に全日本病院協会で講師をコミュニティデザイナー山崎亮さんをお願いしたところから、山崎さんが代表をされているstudio-Lとお付き合いが始まりました。

2013年10月から伊藤喜三郎建築研究所とstudio-Lと一緒に、院内ワークショップでイメージを共有し、2015年の11月から地域に出て自治会長さんやコミュニティセンターやボランティアの会、サークル活動の責任者の方々にヒアリングを重ねてきました。

地域の人たちが病院の中にある公民館的なスペース（コミュニティホール）を訪れて健康相談をしたり、お互いの元気確かめられること。入院や通院中の患者さんも法人のスタッフも共通の趣味を通して地域社会とつながれること。子育て中の方がお子さんを連れて集まり悩みごとを相談したり支えあいができること。いろんなご希望意見をいただきました。今後は11月の開院に向けて、それぞれの団体の連携の場を作り運営方法などについてワークショップを開催し、地域のみなさまとのきずなを形成してまいります。